

岡山県の電子入札実験概要について

岡山県土木部監理課

1. はじめに

岡山県では高度 IT 時代に対応し、また、IT を活用して地域の発展を図るため、全国に先駆けて県内主要地域を結ぶ高速ネットワーク「岡山情報ハイウェイ」を完成させるとともに、これを核として地域内を面的に覆う地域情報網（リージョナルウェブ）の整備を進めているところです。

さらに、これらの基盤を活用し、経済活性化、IT の恩恵を実感できる県民生活の実現を図るため IT 戦略プログラムを策定し、次のステップに踏み出しています。

2. 岡山情報ハイウェイ

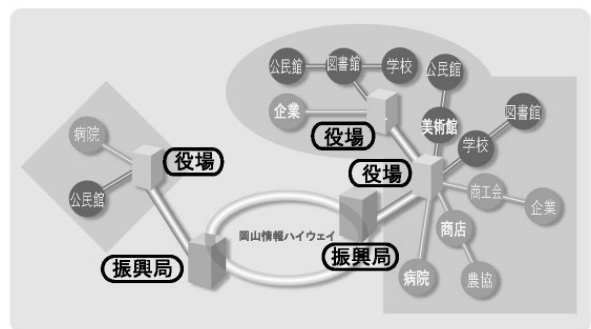
岡山情報ハイウェイは、「高度情報社会のメリットを県内全域誰もが享受できる環境」を創出するため整備を進めているものです。平成12年度に県内9カ所の総合出先機関である地方振興局を自設線で結ぶ、8の字ループ型の基幹幹線を完成させたところであり、この通信速度は、622Mbpsから155Mbpsで非常に高速な回線となっています。

現在、次のステップとして、この情報ハイウェイ

岡山情報ハイウェイ概要図



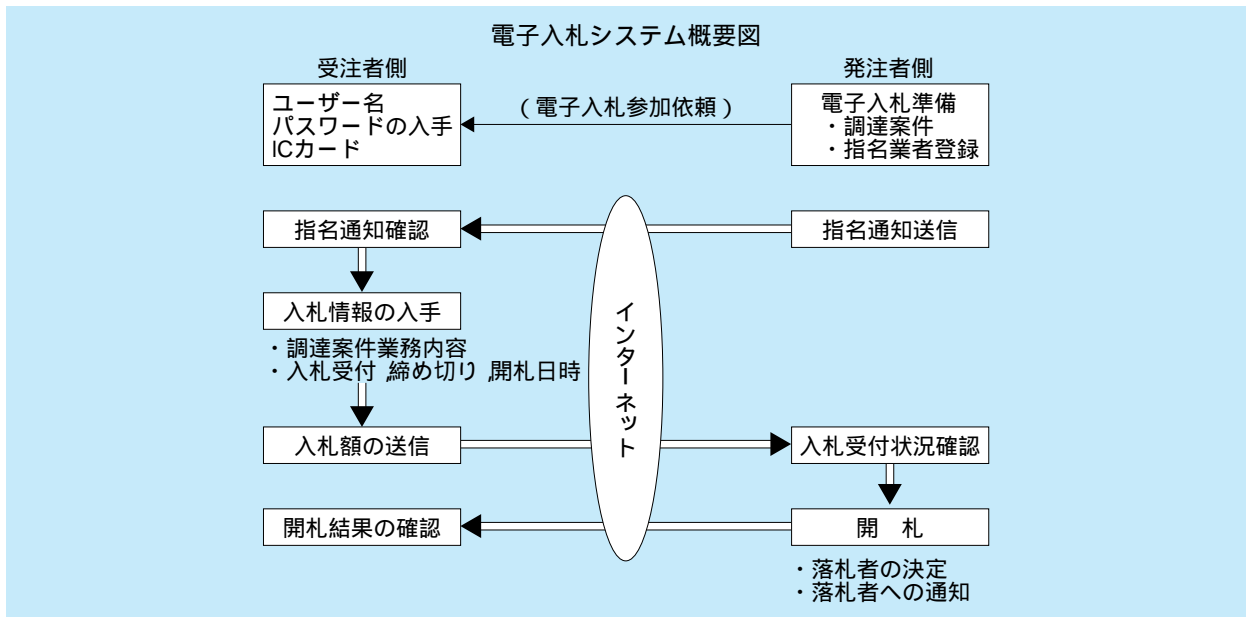
リージョナルウェブ概要図



いと市町村役場を結び、さらに役場を接続点として地域内の公共機関、医療機関、企業などが情報ハイウェイに乗り入れることができるリージョナルウェブの形成を目指しています。

3. 電子自治体戦略

岡山県では、この IT 戦略プログラムの中で電

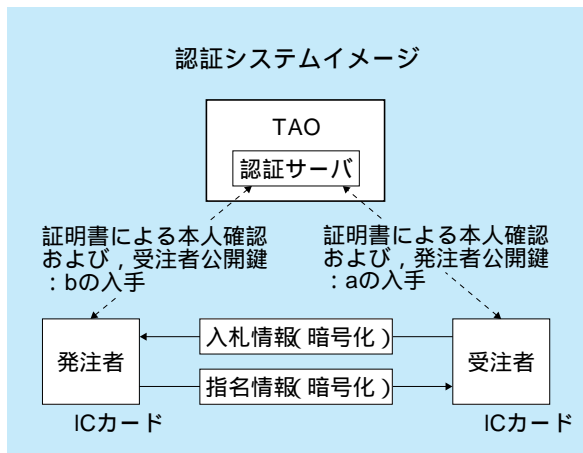


子自治体戦略を掲げ、電子申請など行政の電子化の推進による県民サービスの向上を図ることとしています。これを受けて、土木部では、入札参加者の利便性の向上や発注者側の事務の効率化等を図るため、電子入札を推進することとし、今年3月、作業チームを作り、電子入札の実験システムを整備するなど早期導入に向けて取り組んでいるところです。

4. 電子入札実験システムの概要

電子入札実験システムは、二つのシステムから構成され、一つは電子入札システムで、二つ目は認証システムです。

まず、電子入札システムは、今回実験用に作成



したもので、入札方法は指名競争入札を対象とし、指名通知から、開札、落札通知までの一連の手続きをインターネットを通じて行うものです。

次に、認証システムは、通信放送機構（TAO）岡山情報通信開発支援センターの高度利用者認証技術開発設備を使用し、ICカードを利用して電子署名、通信内容の暗号化を行っています。

5. 電子入札の実験方法について

この実験は、まず、第1段階として、振興局の職員を入札参加者に見立て、県庁LANを通してシステムのチェックに主眼をおいた実験を行いました。そして、第2段階として、外部の業者（建設コンサルタント）の参加により、過去入札済みの業務を再度電子入札で行うという形でインターネットを利用した模擬実験を行った後、次に、県の出先事務所である地方振興局で発注する設計業務を、同振興局において従来の入札（紙入札）と同時に電子入札を実施したところです。

なお、落札者の決定は、県の財務規則等の規定もあり、紙入札で決定することとして実験を実施しました。

(1) 実験方法（地方振興局の実施例）

- ① 指名業者に電子入札実験の参加意向確認

電子入札開札結果

状況	登録業者番号	登録業者名	第1回入札額	第2回入札額	第3回入札額
決定	50000	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000
50000	〇〇〇〇	(株) 〇〇〇〇 支社	¥4,800,000	¥4,800,000	¥5,000,000

- ② 参加業者に IC カード、カードリーダーの貸与および認証ソフトの配布
- ③ 指名通知の送信
- ④ 指名通知を受けた業者は、入札情報（入札日時、業務概要等）を画面で確認するとともに、金抜設計書（PDF 形式）をダウンロード。
- ⑤ 業者からの入札値の受信（受付時間30分）及び到着確認
- ⑥ 開札及び落札者の決定
- ⑦ 開札結果の送信（もしくは再度入札実施の通知）
 - (2) 受注者側の必要ソフトウェア
 - ① OS：Windows95以上
 - ② ブラウザ：Netscape Communicator3.01以上
Internet Explorer3.02以上
 - ③ 認証ソフト：実験参加者に配布
 - ④ 機器類：IC カード及びカードリーダーは無償貸与。

システムにアクセスした業者があり、また、システム面では、停電の場合など異常が発生した場合の対応を考慮していないため、県のサーバー等機器の安全性の確保を図るとともに、受注者側の故障時等を考慮し、運用方針等を定める必要があります。

さらに、実際の電子入札に当たっては、入札参加者は、複数の発注者の入札を同時に行うことも考えられ、入札受付時間、再度入札の実施時間などについて、どのようなケースにも対応できるよう、ルールを事前に決めておく必要があると考えられます。

また、工事に係る電子入札の実施については、入札参考資料の設計書や図面が膨大な量となり、現在のインフラでは、入札参加者に送信するには長時間を要することから、当面、入札参考資料の配付方法について検討するとともに、将来的にはリージョナルウェブの早期整備が必要となっています。

6. 実験結果について

今回の外部の業者の参加による2回の実験はスムーズに行うことができましたが、今後、実際の入札に移行するためにはさらにシステムの改善や電子入札の実施に当たった運用面での研究が必要と考えられます。

まず、通信面では、受注者の社内 LAN の環境によっては認証システムとの通信ができず、プロバイダに接続しているパソコンを利用し、実験シ

7. 今後の取り組み

今後、来年度からの電子入札の実施に向けて、このような実験をさらに行い、電子入札システムの問題点や改善点を検討しながらシステム整備や運用面の研究を進めるとともに、県全体の調達システムや全国的な CALS/EC の取り組みを考慮し、効率的なシステム整備ができるよう進めたいと考えています。